

αηρ はギリシャ語で「あえる」と読み、大気・天空を意味します。空で会える、仲間に会えるを合言葉に!



「とびまる」
マスコットキャラクター

広報

あえる

HOSPA

Vol.64

夏も冬も北海道のスカイスポーツを楽しもう!

発行日 2023.1.15

飛んで、飛んで、どこまでも飛んでゆけ!

濱田 革 北海道ハング・パラグライディング連盟

スカイスポーツイベント2022

グライダー関連書籍の紹介

日口 裕二 滝川スカイスポーツ振興協会

ウルトラライトプレーンとの出会い

風間 彩 白老フライングクラブ



撮影者
黄 嘉慶氏
場所：留寿都村 樺負山(ソリオイ山)



公益社団法人北海道スカイスポーツ協会

HOKKAIDO SKY SPORTS ASSOCIATION

HOSPA

検索

〒060-0042 札幌市中央区大通西4丁目道銀ビル TEL011-232-4347

飛んで、飛んで、どこまでも飛んでゆけ！

北海道ハング・パラグライディング連盟 濱田 革

高校まで過ごした大阪から北海道の大学に進み、子供の頃テレビ番組で見たハンググライダー（以下HG）を始めました。大学にサークルが無かったので、市内のHGスクール入り、毎週札幌からルスツに通い大学2年生の秋に留寿都村橈負山から空に飛び立ちました。



HGと一緒に全国を回っている愛機、PGは地元筑波のフライヤー。

動力を持たないHGは、山の斜面を駆け上がる風や地面が暖められて発生する熱上昇風を利用して、高く長く飛びます。朝晩や地上と上空の気温差が大きく乾燥している日など上昇風が良く発生し、風向・風速等の条件が整った日に、離陸地点からどこまでも遠くへ飛んでいくクロスカントリー飛行（以下XCF）は、HGやパラグライダー（以下PG）の楽しみ方の一つです。

私が初めてXCFをしたのは、大学生の時帰省し、関西のフライヤーと兵庫県のエリアに飛びに行った時でした。私より上で飛んでたベテラン選手を必死に追いかけて上昇し、ふと振り返ると離陸した地点がはるか遠くになっていました。上昇気流に乗りながら風下に流されたのでした。もう離陸地点に戻ることはできなかったもので、そのまま風下に向かって飛び、約15km先の田んぼに着陸しました。それまでは、風が当たっている山の風上側でしか飛んだことがなかったのですが、山の風下側に飛んでいく初めての経験となりました。

その後北海道でも、山頂より高く上昇し、XCFのチャンスがある度に、風下に飛んでいき、留寿都から札幌まで47kmの飛行を実現しました。標高900mの中山峠を、大気のエネルギーだけでHGで超えたこの経験は、現在も常にXCFの可能性を求める原動力となっています。その後も、狩勝峠↓富良野麓郷、比布↓朝日町、ニセコ↓中山峠、比布↓

が多い規模の大きなエリアを中心に飛びました。この間、トップパイロットと一緒に飛べるHG・PGの大会に出場するとともに、4月には、茨城県筑波山エリアから福島県までPGで118、94、83、51kmの4本のXCFを行いました。

飛ぶためには、前日から気象情報を収集、フライトの予想、無線や機器の充電、飲み物や軽食の準備、そして空を飛ぶぞという気持ちの準備が必要です。このため、実際にいつでも飛べる環境になると、雨天や強風の日はいくつでも飛べる環境になると、「ホッ」とします。若い頃はがむしやりに飛んでい

ましたが、毎日飛ぶモチベーションの維持、日々のフライト目標の設定は難しく重要です。

1年経過し、ハーネスに体が馴染み、グライダーの操作・グライダーの挙動の察知とそれに対する反応・着陸時の高度調整・離陸・着陸が上達しました。しかし、競技会で良い成績を収め、長距離飛行を実現するためには、雲や風の流れを把握し、さらに先を予測し、適確に上昇気流を捉え、他機の動きも見極めて飛ばなくてはなりません。その前提として、翼（機体）の操作を頭で考えるのではなく体が無意識に動き、翼の先まで神経が行き渡り周りの空



PG大会で上げきれず、他の選手の一斉スタートを見上げることに。



山形県白鷹山エリア上空1200mから望む朝日岳連峰。

上富良野、島牧↓長万部と飛びました。大学卒業後道職員となり、令和3年に定年退職しました。退職前に勤めていた旭川市永山の庁舎からは比布エリアが望め、雲が高くフライト条件の良い日が様々な季節にあることを実感しました。そして、毎日飛んだらフライトの可能性が大きく広がると考え、退職後当面三年間、全国のエリアをHGとPGで飛び回る事としました。

全国行脚では車中泊するので、中古のハイエースを購入・整備し、令和3年10月に北海道を発ち、新潟、岐阜、静岡、茨城、和歌山、大分、熊本、福岡、山形、福島で飛び、5月に北海道に戻って来ました。1年目は、多くのエリアを飛ぶより、平日もフライヤー



ハイエースでは自炊、土鍋が活躍。



ハイエースにはソーラーパネル、充電コントローラー、サブバッテリー、インバーター、冷蔵庫を装備。

気の流れを詳細に感じられる領域に達する必要があるります。そして、地形や大気の流れなど飛行条件の分析力を高めるため、様々なエリアで経験を積むことが重要です。まだまだ飛び足らないので、現在2年目の全国行脚がスタートしています。



筑波から福島まで100km飛んでトボトボ歩いていたら「大丈夫?」と警官が優しく声をかけてくれました。

一方、HGもPGも愛好者が減少しており、指導者の資格を取得しフライヤーを育成するとともに、HG・PGの全国大会を北海道で開催し、スカイスポーツを振興することがもう一つの目標です。HOSPA関係者の皆さま、今後ともよろしくご支援お願いいたします。

濱田 革氏プロフィール

大阪府出身、北海道大学農学部林学科卒
現住所…札幌市、妻、子（高2）同居
S36年（1961）3月8日生、61歳
S63↓R3…北海道庁水産林務部勤務
北海道ハング・パラグライディング連盟（H9↓H29理事長、R3↓現在副理事長）
日本ハング・パラグライディング連盟理事（R3↓現在）



スカイスポーツイベント2022

●6月 ■札幌川下公園
**第26回カイトフェスティバル
(風の祭典)**
●8月 ■チカホ(札幌駅前通地下歩行空間)
レッツスカイスポーツ2022

コロナ禍のため交流も激減しており、絆を深めることを目的に令和4年6月、2年ぶりに札幌川下公園で札幌風の会メンバー15名が集まり、第26回カイトフェスティバル(風の祭典)を開催しました。
連風100枚3基!大風3枚を同時に揚げました。風もあり迫力満点!子供たち30名には手製の風をプレゼントし、また連風の体験もしてもらい大いに喜んでもらいました。
8月にはチカホで開催した「レッツスカイスポーツ2022」に



中島・小倉で参加しました。スポーツカイトのPR、子供たちには先着30名にぬり絵型の風を用意して風教室を行い、多くの人たちとの交流が生まれました。

●7月31日 ■たきかわスカイパーク
サマースカイフェスタ2022

3年ぶりの開催!感染症対策として空中菓子まき等の人気プログラムを一部見送りましたが、各種展示や体験イベントに加え、新たに水上機展示や地元一輪車チームの演技等を行い3500人もの方にお越しいただきました。



開催日:10月1日~2日
主催:北海道ハング・パラグライディング連盟
HOSPACUP 22 in 島牧



フリーフライトの10月1日は、午前中は裏風でしたが、風が変わる予報に期待し数名がTOでウエイティングし、午後になり弱い正面からの風で5名がフライトしました。

恒例の歌島児童会館での交流会は道央5名、道東2名、道北1名、道南2名、東京2名、埼玉1名、神戸1名のフライヤーが参加し、全国規模で情報交換となりました。前日までの予報では飛べそうになかった2日も、朝の予報では、北風が回り込んで飛べる時間帯がありそうなので、タスクを設定せずにフリーフライトとし、TOに上がりました。

到着直後のTOはガスが濃かったですが、徐々にガスも晴れ、時々弱い北風が正面(西向)に回り込んでくるようになり、

●5月・10月
スカイダイビング体験会

北海道スカイダイビングクラブ代表 磯谷 正勝



3年目のコロナ禍、5月から10月の間に体験会を開催。例年以上に天候不良による中止もありましたが、6月からタンデムマスター1名増員により、週4回の平日開催も実施して昨年の2倍の体験者数になりました。

PR活動として、7月滝川市、8月大樹町、10月は宮城県瀬峰でのデモンストレーションジャンプも実施。倶楽部員ジャンパーの増員もあり、2023年度はファンジャンプの充実と共に、安全かつ楽しいスカイダイビングの提供を目標に倶楽部活動を充実させていきます。

●6月19日 ■当麻町
熱気球体験搭乗記

旭川市 柴田 鉄平

北海道のデカすぎる空を満喫

当麻町で開催された『スカイスポーツ教室2022』で家族4人・ブツ飛んできました!

熱気球の無料搭乗体験ができるという超



豪華イベントだったので、参加定員を設けた抽選制だったのですが見事当選。
悪天候の天気予報も全て外れ、真っ青な空と無風に恵まれて朝8時からI Can Fly!
初めて熱気球を飛ばす準備段階から見学させていただきましたが、気球がメチャクチャ大きくて、スタッフの方たちも準備しながら大勢で倒れたりして「本当に大丈夫かな?」と不安になったりしましたが、飛んでみたら大感動!

北海道のこの広すぎる空を飛べるなんて最高の経験でした。

北海道スカイスポーツ協会さん、当麻町さん、ありがとうございました!
またやっつね☆

今日はたきかわスカイパークのグライダー体験飛行に家族で来た。
滑空所に到着して順番を待つ、自分の番だ。離陸する前に実際に補助翼、昇降舵、方向舵を動かし舵取りについて説明を受ける。パイロットの方が操作すると後部座席にある舵も同様に動く。コクピットは速度計、高度計、コンパス等の計器と無線機が設置されている。
いよいよ離陸だ。前方の飛行機に引張られ、あつという間に離陸。
引つ張ってくれた、飛行機が遠く離れていく。下を見ると、建物・車が小さく見える。日本一直線の続く長い国道12号が、空の上から見ると一目瞭然くつきりと見える。
更に、旋回しながら上昇していく。プロペラがなくても、色々な上昇気流を利用し、動力としていると説明してくれた。その気流は、雲の動き・地形・鳥の動き等を見て捉えるらしい。
あとは自重を利用して落下する(斜めに滑り落ちる)力を利用し推進する。パイロットの方は、「そんなに難しく無いですよ」とは云うものの、やはり自分にはできそうもない。

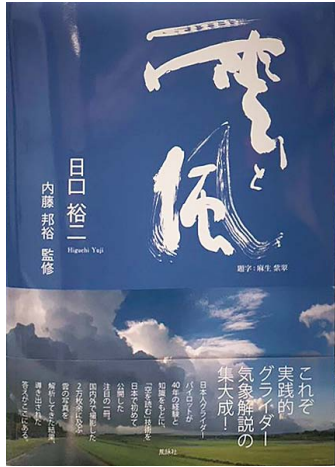
10数分飛行して、そろそろ着陸すること伝えられる。ぐんと旋回しながら、降下していく。スピードが増す。いよいよだ。高度が30m以下になると地面との摩擦で風が弱くなり失速の可能性が高く着陸時が難しいと聞いたことがある。そう思うと勝手に「どっくん、どっくん」と心臓が高鳴る。まもなく、「ガタガタ」と音がした。無事着陸したんだ。近くで家族が手を振っている。

あつという間の時間だったが、「ワクワク」「ドキドキ」と動力無しで飛行出来る、貴重な体験をさせて頂いた。

次回は、この素晴らしい貴重な経験を、妻に体験させたい。

『雲と風』～A Soaring Story of Clouds and Winds～

日口 裕二：著



グライダーってエンジンがないのにどうして何時間も飛べるのだろうか？ 目に見えないのに上昇気流の形ってわかるの？

そんな皆さんの疑問にお答えする、ソアリングパイロット待望の書籍が出版されました。

愛好者向けに書かれたこの一冊は、「空のガイド」を自称する日口さんが学生時代から長年にわたって空を見上げ、撮りためた約2万枚に及ぶ写真を分析し、外国の文献や書籍を読破し、国内外での飛行経験を通して確かめた上昇気流のエッセンスが詰まった本です。

わかりやすい図や写真を用いて、ソアリングパイロットになじみの深いサーマルやコンバージェンス、さらにはウェーブといったソアリング気象をこれだけ詳解した和書はこれまでになく、多くの日本のソアリングパイロットにとって「空のバイブル」になることは間違いありません。

第1章では日口さんが日頃から重視している空の見方を紹介するとともに、第2章ではソアリング気象の基本ともいべき4つの上昇気流について解説

ウルトラライトプレーンへの挑戦

白老フライングクラブ 風間 彩

若い頃からF1などのモータースポーツが大好きで、レーシングカートブームであったこともあり、カネボウ化粧品品の給料もつぎ込み、休みの度に早起きをしてカートコースで練習していました。3年目頃からはかなりの腕前になっており、コースベクトを出してからはポールポジション、逃げ切り型のシリーズチャンピオンにもなりました。その後しばらく中断していたが仲間もまだ走っていたので、復帰してみたら、鎖骨骨折してしまい、ハードすぎるスポーツはもう無理かと思い、次は空だ！ と思いい立ち、パラグライダー界では世界大会にも出場している方のYou Tube を観てメッセージを送り購入しました。そうして練習に来てくれた講師がこの度日本チャンピオンになった滝野浩教官でした。2回程練習をつけてくれましたが、まだ飛べずにいた時、滝野教官がウルトラライトプレーンの教官でもあることを知り、



しています。

第3章では、雲と風のイメージアップ講座と称し、目に見えない空気を正しくイメージするためのトピックスを列記しています。第4章は、ソアリング/クロスカントリーパイロットに必要な複合型の上昇気流について、詳解しています。

特に、著者である日口さん自らが飛行中に撮影した北海道やニュージーランドの空から見た景色は、この本を手にとったすべての読者の心をワクワクさせることでしょう。

ぜひ、みなさんもこの本を読んで、ソアリングの世界に思いを馳せてみてください。

本書の入手は、Amazonまたはたしかわスカイパークまで。

日口 裕二氏プロフィール

1960年 大阪生まれ
1980年 北海道大学入学と同時に、グライダーを始める。
1993年 滝川市入庁。スカイスポーツ振興施策の企画立案に携わる。この頃から冬は南半球で飛行経験を積む。
2002年 オーストラリアにて、1000km飛行達成。以降、ニュージーランドに拠点を移し、山岳飛行に取り組み。
2017年 ニュージーランド選手権3位入賞



現在、(公社)滝川スカイスポーツ振興協会理事 事務局長、チーフインストラクター。
(公社)日本滑空協会常務理事。総飛行時間11000時間、総飛行距離125000km

是非、乗せて欲しいとお願いをしました。そしてな



んとモーター音、見た感じも飛行機みたいでTOP GAN大好きでしたのでマーベリックという名前も気に入りました。と好みでした。陸の仲間、空の仲間、私は同じ趣味の仲間という時間を何より大切と思っています。年齢層もお高めなのもこれからしばらく楽しめる一生の仲間になれる事が嬉しかったです。一人で離着陸できるようになったら、大会にも参加してみたいと思いました。皆さんは20年とかやっていますから安全飛行に気をつけてこれからも楽しく続けて行きたいと思います。モータースポーツまどうぞよろしくお願いします。モータースポーツ時代の仲間もあり、十勝サーキットにてピットに入ったり、オフアールがあればフラダンスも踊ります。インストラクターです。

風間 彩氏プロフィール

生年月日 1966年10月
旭川市永山町生まれ
職歴 カネボウ化粧品北海道販売
プロモーションチーム配属
現在 ロックブリッジホールディングス北海道 顧問営業
ニュービジネスパワー株式会社 コンサルタント
八雲町応援大使
フラダンスインストラクター
背骨コンデシヨニングインストラクター



第12回マイクロライト日本選手権

10月に茨城県で開催された「第12回マイクロライト日本選手権」に北海道代表で出場した滝野浩氏（北海道ウルトラライト航空連盟会長）が見事優勝しました。種目は着陸精度、3回行い総合点数で順位を決めるもの。当日は強風の悪天候でしたが、これまでの経験値から常に安定した飛行により滝野氏（写真右）がFAI国際航空連盟の金メダルを北海道に初めて持ち帰りました。



北海道におけるスカイスポーツガイド2022を10月に発行しました。

2020年1月から始まったコロナ禍により、残念ながら、スカイスポーツの活動も大幅に縮小され、また、愛好者等の高齢化もあり、これを機会に活動中止する団体もありました。

いまだコロナ禍の中での自粛ムードはありますが、これからは、との思いで新しいガイドブックを作製したものです。

スカイスポーツへの新たな参加者の勧誘や、観光客への情報提供などにお使いいただきたいと思います。

当協会HPに掲載しておりますのでご覧ください。



みんなのスカイスports教室



●熱気球体験搭乗会 ●スポーツカイト体験会

1回目 開催日：令和4年5月22日(日)

場 所：札幌前田森林公園

2回目 開催日：令和4年6月19日(日)

場 所：当麻町スカイパーク



●ふしぎヒコーキ教室

1回目 開催日：令和4年5月22日(日)

場 所：札幌市立前田北小学校

2回目 開催日：令和4年6月19日(日)

場 所：当麻町公民館「まとまーる」



札幌市、当麻町ともに定員の3倍以上の申し込みがあり、抽選となりましたが、多くの皆さんに参加してもらいました。

レッツスカイスports 2022

●開催日：令和4年8月7日(日)

●チカホ札幌駅前地下歩行空間(北3条交差点広場)

●主催：(公社)北海道スカイスports協会

●協力：スカイスports団体



札幌チカホにてグライダー、マイクロライトプレーン、カイトなど実機展示の他、各団体のDVD上映、各種ポスターの展示など北海道におけるスカイスportsの紹介を実施しました。

各機材を間近に見て、触れてもらい、貴重な体験に喜んでもらいました。当日は朝から多くの人が訪れ、約2,000名の方々が来場されました。

HOSPA HOKKAIDO
SKY-SPORTS
ASSOCIATION

公益社団法人
北海道スカイスports協会

ホームページは「HOSPA」で検索

●登山 ●キャンピング ●カヌー ●XCスキー
アウトドアスポーツ専門

秀岳荘

北大前店/北条北12条西3丁目 ☎726-1235
白石店/白石区本通1丁目南2 ☎860-1111
旭川店/旭川市忠和5条4丁目 ☎(0166)61-1930

●貨物自動車運送事業・貨物取扱事業
●港湾運送関連事業
●アイスリンク職人歴27年

株式会社ウィズサービス

〒053-0006 苫小牧市新中野町1丁目10-19
TEL 0144-36-6006 FAX 0144-37-8801

一般社団法人
北海道開発技術センター

dec

Hokkaido Development Engineering Center

〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17号
セントラル札幌ビル3F・4F
TEL 011-738-3361 FAX 011-738-1886
URL <http://www.decnet.or.jp/>

お客様のニーズにお応えし、最高の品質をお届けします

損害保険・生命保険・医療保険代理店、
不動産仲介業、賃貸・管理

北海道建物株式会社

〒060-0063 札幌市中央区南3条西6丁目3番地
<http://www.do-tate.co.jp>
代表 TEL(011)281-0123
支店/旭川、函館、苫小牧、帯広、北見、釧路

かわたぎ
はつかりどう

一般財団法人 **石狩川振興財団**

〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17号 セントラル札幌ビル2F
TEL 011-299-7755 FAX 011-299-7550 URL <https://www.ishikari.or.jp>